

<学校の教育目標>

○とりくむ子 ○考える子 ○やさしい子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

子供の学習習慣や生活習慣を安定させ、それらを土台として、知識・技能の習得が進められ、自ら学び・考え、主体的に判断・行動できる力を重ねていく。そして、学んだ力を学習や生活の中に生かせるようにする。

○校内研究を通して

<研究主題> 確かな学力を付けさせるための指導法の工夫
「説明的文章の読みをとおして」（国語科）

○平素の授業を生かして

・教員相互に授業を見合い、指導力の向上を図る

確かな学力向上に向けた具体的な取組

改善の視点

- 言語活動を充実させた授業構成を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 授業に結びつく学習の構え<宿題・忘れ物>の大切さを繰り返し指導する。
- 問題解決型の授業を意識して推進する。特に、学習の見通しをもたせることを大切にする。
- 新学習指導要領改訂に基づいた計画的な学習指導の推進を図る。
- 高学年においては、教科担任的な指導形態を取り入れ、多くの教員が各学級の授業にかかわる。
- 国語科の説明的文章に視点をあてて、読解力の向上をめざす。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・見通しをもって学習を進めることを大事にするとともに、課題解決する喜びを味わうことができるような学習指導の充実を図る。 ・説明する活動や話し合う活動、調べ学習、書く学習など工夫した授業を展開し、言語活動の基盤をつくる。	・個に応じた学習指導を充実させるため、ゆとりある授業時間数の確保をする。 ・高学年の教科担任的な指導形態が可能になる指導計画の工夫をする。	・研究計画の見直しや改善を図るとともに年6回の研究授業を実施する。 ・OJTとして教職員が相互に日常の授業を通して研修できるような工夫をする。	・ワークシート、ノート指導、観察、発言等を活用し、確実に個人の学習成果を評価できるようにする。 ・評価に関わる学習活動の充実を図り、児童の自己評価・相互評価力の向上をめざす。	・保護者がボランティア活動として、学習補助などに積極的に参加できる工夫をする。 ・学校運営連絡協議員・学校関係者評価委員との連携を図り、適切な外部評価を得た教育活動の充実を図る。

<平成21年度の東京都学力向上を図るための調査の課題>

- 国語では、言語について「知識・理解・技能」や「読むこと」に課題があることが明らかになった。
 ①主語と述語の関係を理解すること②主語を認識できていること③叙述を基に想像しながら読むことへの対応が必要である。
- 算数では、数と計算についての表現・処理や数学的な考え方に課題があることが捉えられた。
 ①既習事項を基にして積の概算を行うこと②小数の減法や整数の除法を正確に処理していくことへの対応が必要である。
- 日常、必要な情報を得るために本や新聞を読むことが少ないことが分かった。

<授業改善の課題>

昨年度、実践を通して授業改善を進めてきたが、次の視点をもって授業を練り上げていくことが授業改善につながると考える。

- (1) 言語活動の充実を踏まえた授業構成
- (2) 指導のねらいを明確にし、見通しを大切に単元構成や学習活動の在り方の追究
- (3) 読み解く力を高める指導の工夫
- (4) 日常生活からの問題場面を取り上げ、既習事項を生かして問題解決を図る授業の推進を図る
- (5) 必要な情報を得るために本や新聞を読み生活習慣の確立
- (6) 家庭との連携

授業改善推進プラン【国語科】

谷戸第二小学校

1 調査結果の分析

平成21年度学力向上を図るための調査の結果を基に観点別に分析した結果と各学年の実態を以下に記す。

<漢字の読み書き>

前学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことについては、大体身に付いていると言えるが、前学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができるかどうかをみる問題のうち、「開始」の正答率はやや平均を下回った。

<言語についての知識・理解・技能>

文の中における主語と述語の関係に注意したり、表現したり理解したりするために必要な語句を増す力については、主語が認識できていないことや主語と述語の照応が理解できていないための誤答が目立った。低学年で主述の関係を短い文で理解、定着させる指導を行っている。

<話すこと・聞くこと>

話題に沿って話し合うこと、発言の仕方などのルールに気を付けて話し合うことは大体身に付いている。

<書くこと>

文章の組み立てを考えたり、文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすることについては平均を上回り、大体身に付いている。中学年で作文の書き方、文章の構成の仕方を身に付けさせる指導を行っている。

<読むこと>

場面の様子を、叙述を基に想像しながら読むについては都の全体の正答率も低く、さらに若干低い正答率であった。

2 授業改善の方策

・ 言語に関する知識・理解・技能について

児童が日常生活の中で、読んだり書いたりする機会を十分に確保し、主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、文の構成などに注意して話したり書いたりさせるようにする。

・ 読むことについて

文学的文章では、まず物語全体の展開をおおまかに押さえてから、文脈に即して場面の様子を的確にとらえたり、確かめたりする指導の充実を図る。

登場人物の行動の理由や心情を表す言葉を書き出すなど、着目する観点を明確にして場面の様子をとらえさせるようにする。

説明的文章では、文章全体の概要を正しくとらえさせ、段落ごとの要点を押さえ、段落相互の関係から文章全体の構成をつかませる。また、情報を取り出すために、大切なところを細かい点に注意して読んだり、筆者の主張をとらえるために段落の役割を理解したりする指導をていねいに行う。

学習したことを読書活動につなげる指導を工夫する。

3 補充的・発展的な学習指導

- ・ 補充的な学習指導としては、文章を読み解く方法を身に付けさせるために、読み取りのコツを示し、少しずつ児童自身が自力で文章を正確に読み取れるようにする。
- ・ 発展的な学習指導としては、自分の考えを文章に表現する機会を増やし、優れた表現を自分の表現活動に生かせるような学習計画を立てる。

授業改善推進プラン【社会科】

谷戸第二小学校

1 調査結果の分析

＜関心・意欲・態度＞

社会科への興味・関心は高く、見学や調べ学習に意欲をもって取り組んでいる。

＜思考・判断・表現＞

資料から読み取った事実を基にして自分なりの考えを導き出すなど、自ら考えていくことを苦手とする児童が多い。

＜技能＞

身に付けた知識や技能を問題解決学習に活用する力に個人差が大きい。

＜知識・理解＞

工業地域の地図上の位置や名称、歴史上の出来事や人物の名前など、正確な知識が未定着の傾向がある。



2 授業改善の方策

＜関心・意欲・態度＞

- ・ 課題提示を工夫し、中心資料を用意する。
- ・ 社会的な事象の背景にある、人の願いや思いに気付かせる。
- ・ 人や社会に自分からどのようにかかわっていくかについて考え、進んでかかわろうとする態度を育てる。

＜思考・判断＞

- ・ 資料の数値の変化や、他の資料との異同等に着目し、自分の考えをまとめることができるようにする。
- ・ 資料を読み取り、活用するに当たり、適切な発問や指示を適宜行う。
- ・ 分かったことを文章や図、表などにまとめたり、話し合ったりして読み取りに生かしていく。

＜技能＞

- ・ 教材・教具の使い方を定着させ、地図や地球儀、年表などを用いた調べ学習ができるようにする。

＜知識・理解＞

- ・ 授業では調べる活動や体験的な活動が中心になり、基礎的な事項を繰り返し押さえる学習が不足しがちな傾向がある。学習したことを全体で共有し、一般化を図る作業を大切にしたい。
- ・ 学習内容を整理したり、確認したりする時間をとる。

◎言語活動の充実

- ・ 児童が資料等から得た情報や思いを自分の言葉で話したり、書いたりする時間を確保し、言語活動の充実を図っていく。



3 補充的・発展的な学習指導

活用型の学習を進める中で出てきた新たな疑問をさらに追究する時間を設定し、問題解決の力を育てる。また発展的な学習については地域の実態や総合的な学習の時間との関連も図っていく。

1 調査結果の分析

平成21年度東京都「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」の結果では、第4学年の算数は全体の点数が都平均「72.3」ポイントよりも比較的高かった。内容別正答率では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」がおおよそ確実な習得となっていた。観点別正答率では、数学的な考え方について「積の概算から積の見積もりを求める」問題で都平均より4ポイント低かった。日常的に見通しをもって論理的に考える習慣を身に付けさせる学習への改善が必要である。

<関心・意欲・態度>

今回の調査から、算数の授業では、文章や図表、グラフ等から解決に必要な情報を正確に取り出したり、読み取った内容を知識や技能と照らしながら十分に問題の意図や理由を推論したりして解決していく意欲や態度が不十分であることが分かった。言語活動において、自分の考えを他者へ説明する活動を充実していかなければならない。

<数学的な考え方>

2位数×1位数の例を基にして、乗数、被乗数を近似する3位数×1位数の計算では、積の概算を行って積を見積もる問題であるが、全体の点数が都平均より下がっている。筋道立てて順序よく考え、既習事項を活用して課題解決を図ることが大切である。数を概数にする方法をよくとらえていないことが分かった。

<技能>

「1/10の位までの小数の減法の計算」や「整数の除法の計算」の問題は、都平均より8ポイント以上正答率が高いものの、正答率が60%と低い傾向にある。計算の処理の仕方が分からなかったことが考えられる。

<知識・理解>

長方形の周と一辺の長さの関係を理解する問題において、都平均より1.6ポイント正答率が高いものの正答率が41.2%と低かった。長方形の性質を理解していないことが分かった。



2 授業改善の方策

◎ 言語活動の充実

言語活動の面から授業計画を見直し、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を取り入れた授業を計画的に行う。

- ・ 日常生活から問題場面を設定し、基礎的・基本的な内容を重点に取り上げるようにし、数学的な考え方、思考力を高める授業づくりをする。児童が新たな性質や考え方を発見し、見通しをもって課題を解決する授業を行う。
- ・ 問題を的確にとらえ、解決に必要な情報を正確に取り出し、既習事項を活用して問題解決を図る学習を推進する。反復練習させる指導（同じ学習内容の反復練習）を計画的に展開していく。
- ・ 図形の性質を理解させるために、普段の授業の中で図形の線を色別にして視覚的に捉えさせたり、正しく用語を理解させたりして図形の性質が分かる授業を行う。



3 補充的・発展的な学習指導

- ・ 単元の終末の時間や夏の学習会を使って、知識・技能を確実に習得するよう、学年の段階に応じた反復を意識した学習指導を行う。
- ・ 言語活動の充実を図るため、式、図、数直線などを用いて自分の考えを説明する活動などを実施し数学的な考え方や思考力を育てていく。

授業改善推進プラン【理科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

理科の学習に対する関心・意欲は高く、理科の学習を楽しんでいる児童が多い。

<科学的な思考・表現>

児童の多くは実験や観察そのものを楽しむことはできるが、深く考えたり、見通しをもったりしながら学習を進めていくことを難しいと感じている児童が多い。

<技能>

複数の資料を比較して共通点や相違点を見出すことが苦手である。

<知識・理解>

既習事項が十分に定着していない。



2 授業改善の方策

◎ 言語活動の充実 実験結果の発表をする時に分かりやすい言葉で説明することができる力を付ける等、学習活動を通して自ら考え表現する活動の充実を図る。

- 指導計画の作成の際に、観察・実験や自然体験などを取り入れた体験的な活動の充実を図り、実感を伴いながら自然の事物・現象を理解できるようにする。

児童一人一人が十分に取り組むことができるように時間設定を工夫したり、教材・教具の数を充実したりする。また、児童が感覚的にとらえ、理解しやすいような教材・教具の工夫を図るようにする。単に言葉等を覚えるだけでなく、学習したことを実際の生活場面に適用して考えることができるようにしていく。

- 「見通す力」を育成するための学習の改善・充実を図る。

「見通す力」を育成するには、既習事項を生かし、結果を予想する習慣を身に付けさせることが大切であり、実験前の予想だけでなく、観察を行う前にも結果を予想させる。すると、児童自身がよく分かっていないことに気づき、その後の観察視点が明確になり、観察への意欲が高まっていく。こうした活動を継続していくことによって、結果を予想する習慣が児童に身に付いていく。

また、予想したことについて、言語によって情報交換する場を設定すると、自分の予想の立て方や、その妥当性について振り返ることが出来ると共に、友達の根拠のある予想などの良いところを学ぶこともできる。これらの経験を積み重ねることにより、「見通す力」を身に付けることが出来る。

- 複数の情報を比較しながら読み取る活動や、その中から必要な情報を取捨選択して活用する指導の充実を図る。

例えば、第3学年「昆虫の体のつくり」の学習において、児童が採取した昆虫だけでなく、昆虫の載っている図鑑の活用や、教師がその他の昆虫や昆虫以外の生き物の実物や写真等を掲示して、児童がたくさんの昆虫や生き物を比較しながら共通点を見い出せるような活動を取り入れる。

また、第5学年「天気の変化」の学習では、観察記録や天気図、降水量のデータ、テレビの映像といった様々な情報を教師と児童が協力して収集し、問題に応じて必要な情報を取捨選択して活用し、問題を解決していく活動を設定する。複数の資料から必要な情報を読み取る力を育て、意思決定を行えるようにしていく。



3 補充的・発展的な学習指導

- 補充的な学習指導としては、いずれの単元でも、スモールステップの指導計画を立て、できる限り再実験や確かめるための観察ができる場を作る。単元の学習終了後に、児童が日常生活の中から学習内容と関連のある科学的現象を想起したり、教師が日常生活で見られる現象を児童に示したりして、学習した内容と日常生活とのつながりを考える場面を意図的・計画的に設定し、既習事項を印象付けて、知識の定着を図る。

理解をより深めるために、単元の系統性を意識した学習計画を考える。

授業改善推進プラン【生活科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

谷戸第二小学校の現状としては、学校周辺に公園や公共施設が多く、地域を知るため、調べるための題材となるものは豊富である。また、自然環境においても近隣に農園や東大農場があり、校内の畑も充実しており、観察や栽培などの授業も多様に行うことができる。

しかし、生き物の飼育に関する学習については教材になるものが少なく、十分には行えていない。また、題材が限定される中で、児童の興味・関心が高まるような工夫を凝らし、体験的な活動を中心とはしているが、そこから児童の考えを深めさせる活動まで十分に行えていない場合もある。

このような現状を踏まえ、具体的な活動や体験を通して、自分自身や自分の生活について新たに気付かせ、考えを深めさせることができる授業を組み立てていかなければならない。

〔目指す児童像〕

- (1) 関心・意欲・態度：自分から進んで物事にかかわろうとしたり、活動を楽しんだりする。
集中し、熱中してかかわることを通して感動する。粘り強く取り組む。
- (2) 思考・表現：対象の特性をよくとらえ、工夫して表したり、その子なりの発想が表れたりしている。物事の微妙な点まできめ細かく感じ取る。言葉や絵に表現する。
- (3) 気付き：主体的に活動する中で様々なことを感じ取り、気が付いたことを、比べたり例えたりしながら、自分の気付きを自覚して伝える。
- (4) 活動の過程で生活習慣や技能を身に付ける。
- (5) 自立への基礎を身に付ける。

2 授業改善の方策

◎言語活動の充実

具体的な活動体験をその場限りのもので終わらせないよう、互いに情報交換を行わせ発表し合う。

- ・ 気付きの質を高めるためには、どのような体験や活動が適切であるかを吟味し、指導計画の見直しを行う。
- ・ 自然の不思議さや面白さを実感できるよう、授業を工夫する。
- ・ 学習教材に対して、児童が具体的な視点やねらいをもって自主的に取り組めるように、学校図書や学級文庫、インターネットを活用する。
- ・ 季節感や日常生活における行事などを大切にし、自分自身とのかかわりを重視しながら、体験活動を行えるようにする。
- ・ 活動の際には担任以外の先生や地域・保護者のボランティアなど、安全に活動できる人的確保を行う。
- ・ まとめにおける表現活動を工夫し、「総合的な学習の時間」へとつながるようにする。
- ・ 地域の豊富な学習教材を積極的に開発し、多様な活動を行えるように工夫する。

3 補充的・発展的な学習指導

- (1) 補充的な学習指導・・・「気付き」を基に自分の考えをもつことが難しい児童に対しては、「見付ける、比べる、たとえる」などの具体的な視点を与えて支援する。
- (2) 発展的な学習指導・・・他教科と関連した単元を構成したり、家庭と連携を図り学習したことを体験させたりして、児童の興味・関心が持続できるようにする。

授業改善推進プラン 【音楽科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

- 思いや意図を膨らませた音楽活動への意欲を高めさせたい。
- 音や声を響き合わせる心地よさを求めようとする態度をさらに育てたい。

<音楽表現の創意工夫>

- 進んで楽曲のよさや美しさを感じ取り、曲想を生かして思いや意図を膨らませながら表現を工夫する力は十分ではない。

<音楽表現の技能>

- 思いや意図を十分に表現できる技能を身に付けさせたい。
- 心の中の様々な思いや意図を聴き手に伝わるように歌唱表現できるための発声や表現する歌い方を身に付けさせたい。

<鑑賞の能力>

- 音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みの係わり合いを感じ取りながら、楽曲の価値やよさを見出し、それを言葉で人に伝えることができる力を育てたい。



2 授業改善の方策

<関心・意欲・態度>

- ・授業の導入、学習活動過程の評価活動の充実を図る。
- ・安心して表現できる仲間づくり、雰囲気作りができるようなグループ活動等を取り入れる。
- ・児童一人一人の音や声に対して、音楽的な表現で的確に言葉かけを行う。
- ・1時間の目標や活動の見通しを「本日のメニュー」として明確に児童に示す。

<音楽表現の創意工夫>

- ・「どのように演奏したいのか」等の思いや意図を引き出す発問を工夫したり、一人一人が考えられる場の設定をしたりして、音楽づくり活動を充実させる。
- ・表現の工夫を行うためのよりどころとなる視点やポイントを明確に示す。
- ・曲の感じを表す言葉かけを多く行う。

<音楽表現の技能>

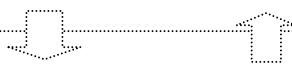
- ・基本的な奏法・コツを示し、常に音色とイメージのかかわりをもたせながら奏法を身に付けることができるようにする。
- ・安心して声を出せる仲間づくりをし、個人の課題に応じた声づくりができるようにする。
- ・技能を身に付けるための具体的なポイントを行う。

<鑑賞の能力>

- ・音楽を形づくっている要素と音楽の仕組みとのかかわりへの気付きなど、鑑賞のポイントを明確に示す。楽曲の印象を大切に、楽曲の背景等イメージを深める発問を行う。

◎言語活動の充実

- ・思考・判断したことや工夫したこと感じ取ったことを言葉で表す活動を行うことで、児童自らが確認して友達と伝え合いながら学習を進められるようにする。



3 補充的・発展的な学習指導

- 進行状況に応じて休み時間や早朝等、児童の習得に合わせた練習時間の確保に努め支援する。児童によっては事前に学習内容を示し、安心して授業に取り組めるようにする。
- 児童同士の学びに発展するようなグループ活動を取り入れる。
- スモールステップを積み重ねながら、市民パレードや合唱活動、音楽委員会の演奏活動等、発表を通して学習の成果を発表して響き合う心地よさを感じ取ることができるようにする。

授業改善推進プラン 【図画工作】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

どの学年も図工を楽しみ意欲的に取り組んでいる。中には技術的なことで表現活動を苦手を感じる児童もいる。

<発想や構想の能力>

自分なりの発想で描いたり作ったりする時に、イメージが湧かず、表現活動が進まない児童もいる。

<創造的な技能>

表現力の蓄積が少ないためなのか、豊かな表現活動ができない児童もいる。

<鑑賞の能力>

親しみをもって造形作品に触れ、友達の作品や活動の良いところや楽しさに気付くことができる児童が多いが、そうでない児童も見られる。

2 授業改善の方策 <言語活動の充実を踏まえて>

・ <関心・意欲・態度>

作品が完成した時の達成感、充実感が味わえる題材の工夫や表現の喜びを味わわせる授業を展開する。楽しく身体感覚で感じるような授業や、分かりやすい言葉で授業を展開していく。

・ <発想や構想の能力>

描いたり作ったりする時の想像力を豊かにするために、話し合い活動や、児童の体験を生かす。プレゼンテーションの力をのばす。

・ <創造的な技能>

創造的な技能は各々の体験や知識の中から児童が選択し意図的に生じると考えると、児童の表現を的確に分かりやすい言葉で受けとめ、表現のよいところを分かりやすく伝えていく。

・ <鑑賞の能力>

普段の授業において鑑賞時間を充実させ、かつ日常的にも自他の作品を鑑賞する機会を通し、色・形・直感的なイメージ等を活用した話し合い活動を大切にする。

◎ 言語活動の充実

表現や鑑賞をする時、自他の作品のよさを分かりやすい言葉で説明する力を付ける。表現を明確化するには、身体活動や造形的な体験・経験を多くさせ、想像力を豊かにする。

3 補充的・発展的な学習指導

- ・ 完成させることができなかった児童には休み時間や放課後を中心に時間を与えて対応しアドバイスをする。
- ・ 発展的学習としてポスター等のコンクールへの参加を呼びかける。早く終わったら活動が深められるように発展的な教材を用意し、時間を有効に活用できるようにする。

授業改善推進プラン【家庭科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

- ・ 家庭科に興味・関心があり意欲をもって学習に取り組んでいる児童が多い。また、学習したことを家庭で実践する児童が増えている。
- ・ 家庭状況が多様で生活経験に差があり、技能面での個人差が大きい。個別指導を必要とする児童も数名いる。
- ・ 与えられた課題には意欲的に取り組めるが、自ら進んで考えることには消極的な児童が多い。



2 授業改善の方策

- ◎ 言語活動の充実…衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を通して言語活動の充実を図る。
 - ・ 児童の生活に即した具体的な内容から学習を展開し、一人一人が生活をよりよくする視点で学習が進められるよう実践的・体験的な学習を中心とする。
 - ・ 既習の知識や技能を生かし、繰り返し学習することで基礎・基本の定着を図り家庭実践へ発展させる。
 - ・ 製作や調理に関しては二学年の見通しをもたせるためのガイダンス的内容についても行い、平易なものから段階的に繰り返し学習できるように題材を配列する。
 - ・ 技能の習熟の程度により個別指導やグループ別指導を行うなど学習形態を工夫する。
 - ・ 製作や実習の学習ではワークシートを活用し、主体的に計画を立てて、振り返りなどができるようにする。また、計画通りに学習が進められているかどうかの自己評価をさせる。
 - ・ 児童の思いや願いを実現させるために、教材を選択できるように設定する。例えば、野菜を扱う題材では野菜の種類を選択できるようにする。
 - ・ 児童が主体的に学習を進められるように資料や実物を用意し、実際に見たり、触れたりできるようにする。また、調理器具、ミシン等の数を十分に揃え、児童一人一人が進んで学習に取り組めるようにする。
 - ・ 道具や用具の安全な使い方を理解させて作業がスムーズにできるように指導する。



3 補充的・発展的な学習指導

- ・ 授業時間内に作品を完成させることができない児童には、中休みや放課後を利用して仕上げさせ、達成感、満足感を味わわせるようにする。
- ・ 家庭科で身に付けた知識や技能が他の学習や日常生活に生かせるようにする。

1 日常の学習における課題分析

<技能>

休み時間の児童の様子を見ると、校庭に出て外遊びを楽しみ運動する児童とあまり遊ばず運動をしない児童の二極化現象が生じている。その結果、日常生活の経験の差が、体力(能力)の差となって表れている。走・跳の運動、投げる、捕るなど体の基本的な動きにおいても児童の得手不得手は顕著に表れており、運動感覚や体力の低下が見られる。

<関心・意欲・態度>

「体育の授業は好き」という児童は多い。

<思考・判断>

児童はルールを考えたり、運動を工夫したりする活動を協力してできるようになってきているが、健康や安全について、関心はあっても、日常生活を振り返ってそれを確実に理解している児童はあまり多くない。

2 授業改善の方策

【指導計画】

学習指導要領の改訂により、低学年の授業時数が105時間に増加したことや、全学年に体づくり運動が新設されたことなどを受けて、各学年の指導計画を再編成する。児童の心身の発達や特性を考慮し、小学校6年間の見通しをもって指導計画を立てることが大切であるため、運動の特性に系統性を見出し、それに基づいたものを作成する。なお、低学年においては体づくり運動の充実を図ると共に、増加時数を生かして他の領域に関してもより充実した指導計画を編成できるようにしていく。

◎ 言語活動の充実

集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育むとともに、運動やゲームの練習や作戦を考え、その改善の方法などを児童が互いに話し合う活動を大切にする。

【指導方法】

運動感覚や体力を高めるためには、体をたくさん使い、児童が思い切り運動できるような活動・遊びを授業に多く取り入れていくことが大切である。「体育が苦手」だと思う児童はその運動をするにあたっての必要な運動感覚が不足しているからである。

そこで、活動を工夫して行うことができる簡単な場、簡易化されたルール、力一杯活動できる時間の確保はもちろんのこと、運動の特性にふれて、今もっている能力を発揮しながら活動に取り組むことで、「運動することが楽しい」と実感し、体育を楽しむことができるようにする。

運動の特性にふれた活動が体力の高まりを感じることに繋がったり、運動そのものの楽しさを味わったりすることができることを考え、低学年から多様な運動遊びを取り組めるような授業展開を計画し運動感覚を培っていけるようにする。そのためには、児童の心身の発達の特性を考慮して授業を展開していくが大切である。また、授業の中で一人一人が自らめあて(課題)をもって取り組み、その課題が達成できるような学習を展開し、その学習成果を的確に評価することが大切である。そのことが児童にとって次のめあてを明確にもつことにつながる。つまり学ぶ喜びを味わわせる体育学習を実践することが重要である。以上のように、指導と評価の一体化を図り、展開していくことが求められる。

- ・教材研究
- ・スモールステップの授業
- ・学習カードの活用
- ・教師の声かけ
- ・ルールや場の工夫
- ・児童のかかわり合いの充実
- ・満足感や達成感が得られる授業
- ・十分な運動量の確保できるような授業
- ・楽しい体育

3 補充的・発展的な学習指導

段階的な場を用意して場に応じた具体的な運動のめあてを明確にもてるようにし、個の能力に適した場で運動するとともに、体力の高まりを実感できるようにする。

また、体育的活動を通して多様な運動経験を構築したり、授業の中で運動の日常化につながるような学習を展開したりして、運動する機会を増やすきっかけづくりを行っていくようにする。

健康・安全面については、発達段階的に計画的に指導していき、日常生活に生かせるようにする。

授業改善推進プラン【道徳】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

- ・ 話合いの場面では、自分の意見をなかなか発表できないことがあり、発表者が限られてしまうことがある。
- ・ 資料を通して考えたことが、振り返りに生かされていないことがある。
- ・ 効果的なワークシートの作成ができていない。
- ・ 自立心や自主性、生命を尊重する心の育成をさらに重視していく。(新学習指導要領から)



2 授業改善の方策

○ 道徳の時間を道徳教育の要とし、学校の教育活動全体で取り組む。

○ どの児童も考え、発言ができるように

- ・ 児童理解に努める…道徳的価値に対する児童の意識調査、日頃の様子を観察、作文等から児童一人一人の道徳性の実態を把握しておく。その際、児童のよさ、努力、変容などに着目するようにする。
- ・ 資料提示の工夫…児童が資料を十分理解し、登場人物に共感できるようにするなど、資料提示の方法を工夫する。(紙芝居、語り聞かせ、パネルシアターなど)
- ・ 導入、展開の前段・後段、終末での学習がそれぞれ、ねらいに即したものになっているかを吟味する。

○ 道徳の授業の意義の再確認

- ・ 体験活動に終始したり、資料の読み取りで終わったりせず、ねらいに迫ることができているかを確認する。
- ・ 展開後段を大切に、ねらいとする道徳的価値に照らして必ず自己の見方、考え方やその変容を振り返らせ、道徳的実践力に結びつけられるようにする。

○ 授業の流れ

導入 児童の実態や資料の特徴により、導入の方法を工夫する。

◆ねらいとする道徳的価値へ、児童の意識を方向付ける。

◆資料について興味・関心をもたせたり、場面や登場人物について解説をしたりする。

◆学習の雰囲気づくりをする。

- ・ 絵、写真、アンケート、新聞記事、作文、日記、録音テープ、VTRなどを活用する。

展開前段 ◆資料を使って、ねらいとする道徳的価値について考えさせ、把握させる。

・ 資料提示の工夫(紙芝居、語り聞かせ、パネルシアターなど)

・ 指導方法の工夫(発問、体験を想起させる、役割演技、動作化、ワークシート、板書等)

展開後段 ◆ねらいとする道徳的価値について自分とのかかわりでとらえさせる。(価値の一般化)

・ 話合い、ワークシート、心のノート等で自分を見つめ直す。

終末 ◆ねらいとする道徳的価値の整理、深化、広がり、定着を図る。

・ 教師の説話、児童の作文、保護者からの手紙、歌、ゲストティーチャーの話等

授業改善推進プラン【総合的な学習の時間】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

平成22年度の年間指導計画は以下のものであるが、その取組み方について課題を分析した。

<谷戸二小の年間指導計画>

	Ⅰ学期	Ⅱ学期	Ⅲ学期
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学校や公園の生き物を見つけよう (せせらぎ公園・憩いの森・東大農場) 地域・環境 かいこを育てよう 環境 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人と仲良くなろう 国際理解 こむぎを育てよう 環境 チャボを育てよう 命 	<ul style="list-style-type: none"> 昔遊びの達人になろう 伝統文化 元気大作戦 健康・自分
4年	<ul style="list-style-type: none"> エコライフ研究所 (緑のカーテンを作ろう) 環境 外国の人と仲良くなろう① 国際理解 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人と仲良くなろう② 国際理解 伝えよう 共に生きよう① (お年寄りの方と仲良くしよう) 福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ぼくの私の2分の1成人式 健康・自分
5年	<ul style="list-style-type: none"> お米大作戦 (パソコンを使って調べたりまとめたりする) 健康・自分 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心してくらせる町 地域・環境 感動を伝えよう 自分・表現 市民まつりに参加しよう 地域・自分 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの生活と周りの環境 (CO2削減に取り組もう) 環境
6年	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの町の環境を 考えよう (せせらぎ公園・憩いの森・東大農場) 地域・環境 菅平の魅力を探ろう! 環境等 	<ul style="list-style-type: none"> 過去、現在の自分、これからの自分(キャリア教育) 健康・自分 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国々を知ろう 国際理解 卒業プロジェクト 健康・自分

<関心・意欲・態度>

- 共通体験を楽しみにし、意欲的に取り組む児童が多い。自ら進んで課題解決していこうとする児童はあまり多くない。

<課題設定、課題追究の力>

- 体験を好む児童が多いが、自分なりに課題をもつことが苦手な児童も多い。また、自分で計画を立て、見通しをもって追究していくことも苦手な児童もいる。
- 発展的・横断的な学習については各学年取り組んでいるが、それが探究的な学習にむすびついていないことも多い。

<表現する力>

- 新聞にまとめたり、パソコンを使って発表したりと多様な表現方法を知っているが、他者に発表する力としては、個人差が大きい。また、学年が上がるほど、その個人差が広がっている傾向がある。

<共に生きる力>

- 友達と協力して活動を進めることができるようになってきている。高学年では、自己評価や相互評価を効果的に取り入れ、評価する力も少しずつ身に付いてきた。
- 各学年の系統性を考えた年間指導計画の見直しや、特別活動とのかかわりを明確にした単元の作成を行う必要がある。

2 授業改善の方策

- 年間指導計画の見直しや、探究的な学習を核として単元の構成や進め方を工夫する。
 - ・ テーマ設定への支援
 - 中学年では課題を選択させたり、高学年では繰り返しの体験を重視したりして課題が作れるようにする。
 - ・ 多様な体験活動の工夫と支援
 - 共通体験や児童が考えた具体的な体験活動を重視し、意欲的に活動できるようにする。
 - ・ 情報の収集や分析についての段階的指導と支援(各教科との関連付け)
 - 書物による調べ学習、現地での実地調査、インタビュー、インターネットの活用、実験などを使って、情報を収集し、それを分析するなどの思考力を育てる。
- ◎ 言語活動の充実(発表の仕方(情報発信)の工夫と支援)
 - 互いに発表し合う等の交流を通して目的意識、相手意識をしっかりとめ、情報発信の技能を具体的に支援するなどし、聞き手に分かりやすい情報発信ができるようにする。

授業改善推進プラン【特別活動】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

集団活動における本校の児童の課題として、次の3点があげられる。

- ・ 集団活動になると規律や全体の目的を意識して動ける児童が少ない。
- ・ 積極的に発言・活動する児童が一部に固定してしまう。
- ・ 個々の考えは主張できるが、全体の意見としてまとめていく力が弱い。

こうした課題は本校のみならず、児童の抱える今日的な課題であり、背景となる社会の現状をも反映している。その意味でも「集団およびその一員としての個を育てる」特別活動の意義は極めて大きいと言える。



2 授業改善の方策<言語活動の充実を踏まえて>

①学級活動の充実

学級による集団活動は、すべての集団活動の基本になるため、もっとも重要である。

内容としては「話し合いの活動」「集会の活動」「係の活動」「当番の活動」などがある。「係の活動」「当番の活動」においては、やりきらせることが何より大切である。

手だてとして

- ・ 当番表を作り個々の役割を明確にする<自分の責任の明確化を言語ではっきり>
- ・ 仕事を単純化・ルーティン化すること（細分化したり、毎週1回活動させたりする）
- ・ やり終えたか確認すること（朝や帰りの会で確認する・発表することで言語活動の充実化を図る）

②「話し合い活動」においては、教師の役割が重要である。

手だてとして

- ・ 「何のために」話し合いをするのか、明確につかませる（言語での相互の交流を図る）
- 集会の活動においても、目的を共有することができるようにさせる**
- ・ 活動全体の中で、児童が話し合いで決めて良いところはどこか、明確に指示する
 - ・ 児童は「係」や「集会」のやり方、内容を考える材料がないので、特に低学年では教師が教え、イメージをもたせる（分かりやすい言葉や文章で指示する）

③ロング集会等の充実

集会の意義・内容・方法を担当・全校児童共に明確な活動を文章や話し合い活動で知らせる。学校全体がかかわって、一つのことをやり遂げる満足感を味わわせたい。恒例となっている「谷戸二子ども祭り」においては、各クラスでお店を出すだけでなく、参加意識を高めていく工夫をする。代表委員会担当は、児童が全体の見通しをもって活動できるよう指導する。

また、今年度もユニセフ活動を行い、全校集会でその意義を訴えるとともに、運営・代表委員会が中心となって募金活動を行っていく。

授業改善推進プラン【外国語活動】

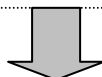
谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

集団活動における本校の児童の課題として、次の2点があげられる。

- ・ 繰り返し発音することで自信のある児童がいる一方で、理解が深まらずに、ただ楽しむだけの児童もいる。
- ・ 全体の場では、積極的に表現できている児童でも個人の発表となると遠慮がちになってしまう。
また、発表する際に、限られた児童が中心になって授業が進むことがある。

外国語活動の目標にもあるように、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことを第一に考え、下記のように方策を考えた。



2 授業改善の方策

- 児童が、自信をもち意欲的に発表できるための指導計画の工夫

- | |
|-------------------------------------|
| ・ 導入（新出単語・表現の導入） input/introduction |
| ↓ |
| ・ 定着（既習単語・表現の練習） practice |
| ↓ |
| ・ 応用・発展（既習表現の応用） use/production |

単元1時には関心をもって聞く、2時は既定の単語や文を話しながらコミュニケーションを楽しむ活動、最終時に前時で既習した文を利用して、自分の気持ちを表現できるようにする。

上記した3つの段階を意識してアクティビティを選定していく。

- Inputの時間を大事にするための教材の工夫

- ・ 歌やチャンツ

高学年の場合、英語の歌を歌うことに抵抗をもっていて、歌わない児童も少なくない。無理に歌わせるのではなく、聞く活動を中心として、聞き取るべき内容を明確にする。ラップに似ているようなチャンツが有効である。

- ・ 絵本・紙芝居・お話

絵本選定の留意点

- ・ テーマ・言語材料の紹介として活用できる題材
- ・ 有名人の自叙伝や漫画、ビデオなども効果的

- 学習者中心の活動

児童の感性に響く外国語活動を目指す。

外国語活動が得意な児童も、苦手意識のある児童も、すべての児童が意欲をもって学べるために多様な授業方法を取り入れるようにする。

- ・ パターンのあるゲーム
- ・ 絵を描く
- ・ 歌う
- ・ チャンツ
- ・ 聞こえた指示通り身体を動かして表現する。
- ・ ペアワーク・グループワーク
- ・ 区別・分類する
- ・ 自分のことを表現する
- ・ 並び替え